



書庫の薄闇

経営学部 准教授 石井龍太

大好きだが、最近さっぱり行けていないところがある。閉架書庫である。

何でもそうだが、バックヤードに入るには権利が必要である。本学のように開放された書庫もあるが、貴重書が詰まっている空間は一般に閉架となる。そこは図書館の命だから、入るにはそれなりの身分証明がなされなければならない。私が書庫の魅力を知ったのも大学院生になってからである。読むことより収めることを優先した薄暗い世界を歩いていると、なにやら誇らしげな気持ちになったものだ。目当ての本にたどり着くと、ついでに隣に並んでいる関連図書にも手を伸ばす。あれこれ物色していると、対面側の別のカテゴリーも気になったりする。知的好奇心の赴くまま、本を渉猟するのは楽しかった。

とはいえ、書庫の中で目当ての本にたどり着くのは簡単ではない。増える一方の本をどう収めるかは、どこの図書館も課題にしているところだと思うが、関東大震災後に立てられた母校の図書館は、継ぎ足しに継ぎ足を重ねた結果だろう、巨大な迷宮になっていた。階によって構造が異なり、連番の本が別館に飛んでいたりする。私が学生の頃には、PCで検索し、所蔵地点が地図表示されるシステムも既にあったが、それでも目的地にたどり着けない。目録カード時代の先人たちは、この迷宮にどう挑んでいたのだろうか、尊敬の念を抱きながら、目当ての本を求めて迷宮をさまよう。本を守るためだろう、窓はほとんどなく、日差しが消えて夕暮れを過ぎていることも分からない。時間を忘れるのは簡単だった。

ほぼ同じ理由で、博物館の収蔵庫も面白い。収蔵庫ツアーというのもあるそうだが、是非やっとならうと思う。ただ人によって、向き不向きはあるだろう。動物標本の収蔵庫は、密集展示といった趣で、恐らく専門家でなくともスリリングな刺激を感じると思う。鉱物標本も色とりどりの岩塊が小箱に入れられて並んでいる風景は楽しい。しかし植物標本になると、剥き身で並んでいないこともある。一見するとロッカールームで、その内の引き出しに押し花が入っていたりする。玄人の世界である。考古学の収蔵庫は、動物と植物の中間くらいだろうか。全形が復元できた大型土器や埴輪などは、ケースに収まらないという理由もあって、大棚に並ぶ。壮観である。一方、大多数の小さな破片は箱詰めして仕舞ってしまうので、仕舞われてしまう。給食のパンを入れるサイズのプラケースに、ぎっしり土器片が入った標本箱が、これまたぎっしりと棚に並ぶ光景は、専門家もたじろがせる。

マナーの悪い人がいたのだろうか、最近は書庫を解放せず、目当ての本を係員に出してもらって図書館が増えているようだ。機械が出してくるところもある。母校の図書館もリニューアルが進んでいる。電子書籍化も顕著だ。専門家でも、書庫迷宮を経験できない人が増えているだろう。かく言う私も日々の忙しさにかまけて、便利なサービスに頼りがちだが、文字通り本を辿り、探し出していた頃と比べて、本のありがたみは幾分薄れているように思う。

【知って得する！図書館活用術】

分野・配架別貸出数 年間Top3



社会科学分野1位

自然科学分野1位



文学賞コーナー1位

【アドバイザー通信】

ゆるほん4 実施報告



【TOPIC】

図書館主催講演会 学生参加記



【図書館員おすすめ図書1冊】

『鯨の話』小川鼎三

文藝春秋

図書館ツイッター
@lib_josai

twi2can.com



社会科学分野

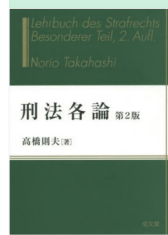
3階開架、1階新書・文庫、シラバスルームの図書のうち、社会科学に分類されているものを対象にしました。1位の貸出は23回。

1位『経済論文の作法』 小浜裕久, 木村福成著, 日本評論社 経済分野の勉強方法、レポートの書き方の本が1位！



2位『エレメンタルマクロ経済理論』 庭田文近編著, 晃洋書房 現代政策学部・庭田先生の著書。

『経済史』 小野塚知二著, 有斐閣 前近代から現代まで経済の成長について書かれた1冊。



3位

『刑法各論』 高橋則夫著, 成文堂

『よくわかる産業・組織心理学』 山口裕幸, 金井篤子編。

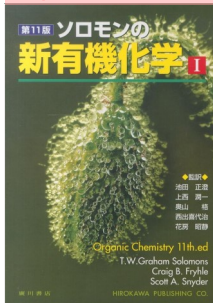


自然科学分野

3階開架、1階新書・文庫、シラバスルームの図書のうち、自然科学に分類されているものを対象にしました。1位の貸出は32回。

1位『ソロモンの新有機化学』 T.W. Graham Solomonsほか著, 廣川書店 初版(1984年)以来版を重ねている図書。

1位になった最新版は11版(2015年)です。



2位『ソロモン新有機化学・スタディガイド』 T.W. Graham Solomonsほか著, 廣川書店

1位の本の手引きであるスタディガイドが2位に。



3位『化学物質の分析』 日本薬学会編, 東京化学同人

主に薬学部の学生が利用する図書がトップ3入り。
3冊とも貸出数統計では、大抵上位となる資料です。

番外編

文学賞コーナー

文芸書が好きな学生に人気のある2階文学賞コーナーも調べてみました。
1位の貸出は14回。

1位『火花』 又吉直樹著, 文藝春秋 今や作家の顔が定着した芸人・又吉氏の芥川賞受賞作。城西大学でもやはり人気。



2位『コンビニ人間』 村田沙耶香著, 文藝春秋 コンビニバイト生活18年の女性が主人公。



3位『何者』 朝井リョウ著, 新潮社 / 『サラバ!』 西加奈子著, 小学館

『蜜蜂と遠雷』 恩田陸著, 幻冬舎 / 『GO』 金城一紀著, KADOKAWA



1、2位は芥川賞。
3位は全て直木賞
受賞作でした。

12月には「本屋大賞」受賞作も文学賞コーナーに、新たに加わりました。



第17回ライブラリーラウンジ

「ひとりじゃない読書への誘い：ゆるくほんでおしゃべり、しませんか4」を開催しました（12月19日）

今回の「ゆるくほんでおしゃべり、しませんか（ゆるほん）」は7階ラーニングコモンズのオープンエリアで開催しました。私は昨年学生アドバイザーとして参加し、学生だけでなく城西大学の教員、図書館地域アドバイザーの方、図書館員も交え、持ち寄った本についてその本の魅力や伝えたいことを余すことなく話し合いました。

総勢18名（3グループ）で行い、どのグループも盛り上がりを見せていました。主催者側、参加者側として「ゆるほん」は、ほかのライブラリーラウンジでは見られない「世代を超えての話し合い」が主となっているイベントだと改めて感じました。なぜなら本についてだけでなく、そこから派生して様々な話題について語り合うことができたからです。次回以降もより良いライブラリーラウンジが開催できるよう努めていきたいと感じた日でした。



参加者：18名

第20回図書館総合展ポスターセッション

優秀賞の表彰状と盾を授与されました（12月19日）

今回はアドバイザーが主体となってポスター「図書館学生アドバイザーの仕事全部見せます！」を作成し、見事優秀賞を受賞することができました。アドバイザーはもちろんのこと、図書館員のサポートもあり、一丸となって作成した「ポスター」だと感じました。

受賞は、総合展来場者31,744名のうち、ポスターセッション（研究者、学生、各種図書館、NPOなど計84機関が出展）へ投票された数による。城西大学の得票数は第4位。

<記：工藤 颯人（経営学部4年）>



Topic

図書館主催講演会「出版社の仕事」（12月14日）

講師：株式会社青土社 編集者
参加者：167名

学生参加記 <浅見 政信（現代政策学部1年・大笹ゼミ）>



今回の講演で雑誌編集担当の方のお話を聞き、出版社に対する印象が変わりました。雑誌を作るためには様々な手順があり、扱うジャンルも多様です。記事に自分の趣味や好きなことを忍ばせれば、雑誌を通して世間に広めることもできます。講師の方によると、仕事のうえでは直接役に立たないと思っていた知識により内容の深みを見出したり、その中で新たな自分の得意分野を見つける可能性もあるそうです。また、誌面を作るとき、専門家から発信される情報には安心感があるが、あえてその分野の専門ではない人を見つけて作り上げていくことが、編集の醍醐味とおっしゃっていました。

これから、様々な人とかわりをもち、学生生活でたくさんの知識や経験を積むことが大切だと感じる講演でした。



学生選書を同時開催

会場では、図書館で購入する図書を学生が選べる「学生選書」も行いました。講演会会場に、用意した青土社の図書を見てもらい、合計25冊が選ばれました（選書者30名）。



研究室訪問報告 Vol.13



図書館では利用者の皆さんに役立つ使いやすい図書館作りを目指して、先生方の研究室を訪問し、ご要望等をお伺いしています。今後も多くの先生方のもとを訪問させていただく予定です。

経営学部 石井 龍太 先生 2018年6月27日訪問

ご存知の方も多いと思いますが、石井先生のゼミでは、地域研究の一環として、オリジナルご当地ヒーローショーの上演を行っています。大人気のゼミですが、活動をはじめた当初は人数が集まらなかったりと苦労が多かったそうです。ショーは土日のイベントで行うことが多く、大変な面もありますが、人前で話すためのプレゼン力が身につきます。今回は、そんなヒーロースーツが所狭しと置かれた研究室を撮影させていただきました（右写真）。

講義では民俗学関連の図書を調べる課題が多いとのことでしたので、関連資料の選書についてご案内しました。

なお先生のご専門が考古学であることから、図書館の8階に保管してある城西大学の敷地から出土した土器の資料整理にも、ご協力いただいています。



図書館員おすすめの図書1冊

『鯨の話』 小川鼎三著。
文藝春秋、2016.4 (080//B89//雑英27)

今月の紹介者：利用者サービス担当 佐野

タイトルに興味を惹かれ手には取ったが、裏表紙にサイエンス・エッセイと書いてある。普段はあまり手に取らないジャンルの作品のため一瞬躊躇…しかし、クジラのどんな話をしているのだろうか？そこで食わず（読まず）嫌いはいやめてみた。

著者の小川氏は脳比較解剖学・医学史の大家である。著者曰く『鯨の話』は本業の傍ら「わき道にはいっていく」ことであったというのが、クジラの標本を求め各地の漁港や博物館を足踏する著者の描写のなんと生き生きとしていることか。もともと1950年に出版されたもので、本書は「文芸学芸ライブラリー」の1冊として復刊された。そのため、当時の言い回しや学術用語が多少難解に感じるかも知れないが、クジラを研究する著者の姿を通して、物事に夢中になる楽しさや好奇心を持つことの大切さを感じることができた。



Information

学生アドバイザー企画

毎年恒例！
図書館詣

期間 1/7月→1/31木 場所 図書館入口付近

2019年も水田記念図書館をよろしくお願ひします。
あけましておめでとうございます。

皆様に図書館のお正月を楽しんでいただくために、絵馬とおみくじ・年賀本をご用意しました。

運だめししませんか？ 図書館おみくじ

図書館オリジナルのおみくじを作成しました。おみくじの中には、あなたの運勢と年賀本キーワードが書いてあります。自分だけの年賀本を見つけよう！

年賀本

図書館オリジナルのブックカバーに包まれてるよ。

カウンター前にて年賀本を展示中！おみくじの中に書いてあるキーワードと同じ年賀本を借りよう！

アドバイザーのコンテストを見て気になった本も借りてみてね。

図書館絵馬

図書館オリジナルの絵馬を作成しました。あなたの新年の抱負を絵馬に書いてみよう！

主催 城西大学水田記念図書館 学生アドバイザー

Copyright (C) Josai University Mizuta Memorial Library All rights reserved.

「仮面本～見知らぬ本との出会い～」

1月26日(土)まで実施中

カウンター前に表紙を隠した30冊を用意しました。本の一文を手掛かりに好きなものを選んでください。
読んだことのなかったジャンルの本と出会えるかもしれませんよ。
※貸出は通常どおりカウンターです。



「城西大学読書感想文コンテスト2018：読む・知る・伝える、読書の楽しみ。」11月30日(金) 結果発表

12月8日(土)、「城西大学読書感想文コンテスト2018」の表彰式を水田三喜夫記念館で行いました。グランプリ作品の全文ほか詳細は図書館ホームページで公開しています。



- ★グランプリ 「ハンセン病を生きて読んで」 伊東 裕太さん
- ★準グランプリ 「「100年後の水を守る」を読んで」 田中 優翔さん
- ★優秀賞 「13秒の風」 中村 有彩さん

試験期間の利用案内・春休みの貸出期間

- 1/15～2/9 平日は通常より30分早く8時半に開館します。
1/15～2/9 シラバス掲載図書の貸出を停止します。※追再試験期間(2/13～3/8も同様)
1/21～3/20 図書(シラバス掲載図書除く)は長期貸出扱いとなります。※返却日4/5

12月の図書館情報

- 12/5 SciFinder利用講習会を開催。
12/8 「読書感想文コンテスト2018」表彰式を実施。
12/12 JDreamⅢ利用講習会を開催。
12/14 図書館主催講演会「出版社の仕事」を開催(学生選書 同時開催)。
12/16 「図書館と県民のつどい埼玉2018」に出展。
12/17 埼玉県大学・短期大学図書館協議会(SALA)第30回研修会に参加。
12/19 第17回ライブラリーラウンジを開催。
12/22 日高市立図書館「ビブリオバトル2018冬の陣」に学生アドバイザー1名が出演。

■高校生見学(12/17) 図書館見学者数：24名

Copyright (C) Josai University Mizuta Memorial Library All rights reserved.

1 月

日	月	火	水	木	金	土
		1 休館日	2 休館日	3 休館日	4 9:00～21:00	5 9:00～19:00
6 9:00～17:00	7 9:00～21:00	8 9:00～21:00	9 9:00～21:00	10 9:00～21:00	11 9:00～21:00	12 9:00～19:00
13 9:00～17:00	14 休館日	15 8:30～21:00	16 8:30～21:00	17 8:30～21:00	18 8:30～21:00	19 休館日
20 休館日	21 8:30～21:00	22 8:30～21:00	23 8:30～21:00	24 8:30～21:00	25 8:30～21:00	26 9:00～19:00
27 9:00～17:00	28 8:30～21:00	29 8:30～21:00	30 8:30～21:00	31 8:30～21:00		

- 平日 9:00～21:00
- 土曜 9:00～19:00
- 日曜 9:00～17:00
- 試験期間 8:30～21:00
- 休館



年度開館予定

発行：城西大学水田記念図書館
〒350-0295
埼玉県坂戸市けやき台1-1
TEL：049-271-7736 FAX：049-286-8126
mail：library1@josai.ac.jp
URL：http://libopac.josai.ac.jp/